【様式６】

業務に対する基本姿勢
赤坂・青山でつながり隊運営支援事業を展開するにあたり、赤坂・青山の地域特性を踏まえ、地域のコミュニティ同士を結び付け、どのように地域の活性化につなげていくか、これまでの業績を活かした基本的な姿勢や考え方を記述してください。

1　業務の目的

港区基本計画赤坂地区版に記載されているめざすまちの姿「だれもが地域に関心をもち共存しているまち　赤坂・青山」の実現に向けて、地域のあらゆる主体がつながる中で、まちの活性化を図り、地域の多様な団体同士の交流を促進することを目標に「赤坂・青山でつながり隊」がうまれました。今年度は、コミュニティ活動に誰もが興味・関心を持つ土壌の醸成など、活動の担い手が広がっていく仕組みづくりを行うために、地域で活動している町会・自治会等に向けヒアリング調査を行い、地域の課題を把握し、解決に向けた地域団体のあり方や運営方法を検討及び考案します。

2　赤坂・青山地区の特性と現状

(1)特徴と現状

・　令和３年に港区子ども家庭総合支援センターの開設、令和４年度には、赤坂中学校新校舎の竣工、令和５年度には南青山一丁目に特別養護老人ホーム及び、認知症高齢者グループホーム、２丁目に区民協働スペースや防災備蓄倉庫、小規模多機能型居宅介護施設などを備えた（仮称）南青山二丁目公共施設の開設が予定されています。また、民間企業などによる大規模な開発事業も計画されており、地区の環境に大きな変化が訪れます。

・　このエリアの人口は、令和2年1月1日には 260,379 人に達しました。平成 22 年に比べ、東京都の人口が 6.3%の増加率を示しているのに対して、港区の人口は 16.6%増加。特に年少人口の増加が顕著です。しかし、赤坂エリアは全体と比較し、老年人口が 4%程度多い状況です。

■年齢３区分別人口の予測（赤坂地区・港区）　　（　）内は、各総数に対する構成比を示します。

		令和元年10月1日		令和２年10月1日		令和８年10月1日(推計)	
赤坂地区	総数	37,682 人	(100.0%)	37,730 人	(100.0%)	39,795 人	(100.0%)
	年少人口	4,765 人	(12.7%)	4,784 人	(12.7%)	5,513 人	(13.9%)
	生産年齢人口	25,225 人	(66.7%)	25,260 人	(66.9%)	26,547 人	(66.7%)
	老年人口	7,692 人	(20.6%)	7,686 人	(20.4%)	7,734 人	(19.4%)
港区	総数	260,115 人	(100.0%)	259,893 人	(100.0%)	284,647 人	(100.0%)
	年少人口	35,571 人	(13.7%)	35,885 人	(13.8%)	40,192 人	(14.1%)
	生産年齢人口	180,570 人	(69.4%)	179,834 人	(69.2%)	197,043 人	(69.2%)
	老年人口	43,974 人	(16.9%)	44,174 人	(17.0%)	47,412 人	(16.7%)

資料：港区人口推計結果（各年10月1日現在）

（図　出典：港区基本計画赤坂地区計画書より）

・ また、以下のとおり在勤者が多いことも特徴です（出典：港区防災危機管理室発行「港区における首都直下地震被害想定の調査・分析結果」）
  - 昼夜間人口比率(5.34倍)や昼間人口密度(474.5人/ha)は、芝地区に次いで高い(H27国勢調査)　※町丁目による違いも大きい
  - 民営事業所数(8,665事業所）や従業員数(201,088人)も、芝地区に次いで多い(H28経済センサス-活動調査)
  - 夜間の居住人口の密度が低い(5地区で最も低い:93.9人/ha)
・ 東京商工リサーチの「社長の住む街」調査の結果によると、全国で最も多くの社長が住む街であり、港区の人口に占める社長比率は 15.1%というデータもあり、職住接近の環境がエリアの魅力となっています。

(2)地域コミュニティの現状

赤坂地区の人口と町会・自治会会員数の推移

1. 港区基本計画赤坂版地区計画書によると、町会会員数が減少し、担い手が固定化・不足しているという課題感を町会・自治会が持っています。
2. 令和元年の調査では、地域活動に参加している区民の割合は 33.2%と半数を下回る結果となっています。

(図 出典:港区基本計画赤坂地区計画書より)

・ また、令和 5 年 6 月に発表された基本計画改定に向けた区民意識調査報告書によると、にぎわうまちに関わる施策の「参画と協働により地域を支える多様なコミュニティをつくる」に関する重要度(重要とまあ重要を合わせて)は63.1%、満足度(満足とまあ満足の合計)は、33.2%と、他の設問よりも低い傾向にあります。
・ 上記を受け、町会と個人をつなぐための地域活動に参加するきっかけづくり「地域デビューの集い」から始まり、町会と地域団体をつなぐ「赤坂でつながり隊」が以下のとおり実施されてきました。

3 業務の基本方針

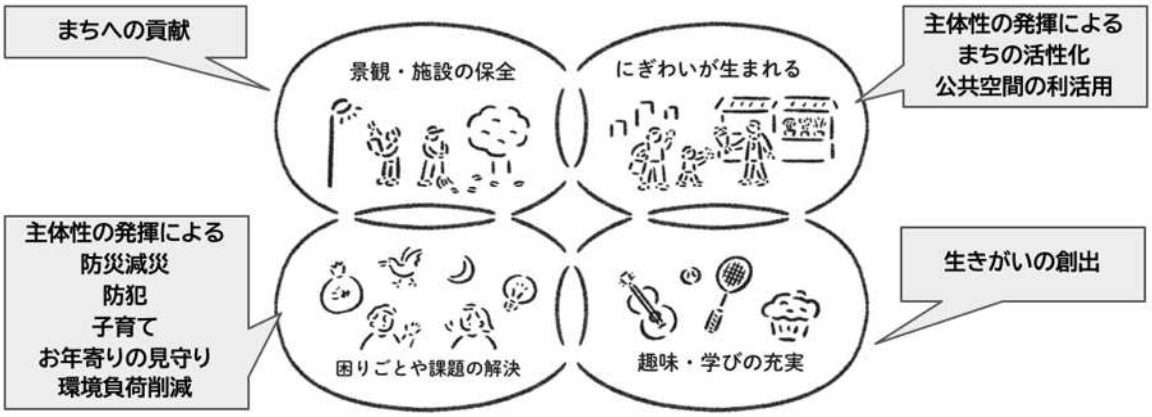
(1)基本姿勢

上記の現状を踏まえ、1の業務の目的を達成するために、当社オリジナルのネイバーフッドデザイン※の考え方を用いて、地域のコミュニティ醸成を支援してきた経験豊富なメンバーが、町会・自治会の調査をもとに、現在赤坂・青山地区が抱える課題を抽出・分析します。そのうえでまちの未来像をイメージし、エリアの課題解決を目指した仮説を構築し、次年度以降の業務の企画を行います。本業務に当社が培ってきたネイバーフッドデザインの手法を取り入れることで、主体的にまちに関わる人を増やし、赤坂・青山エリアが持つ課題の解決に貢献します。

※ネイバーフッドデザインとは:近所に住む人々の信頼関係作りを通して、防災減災、孤独な

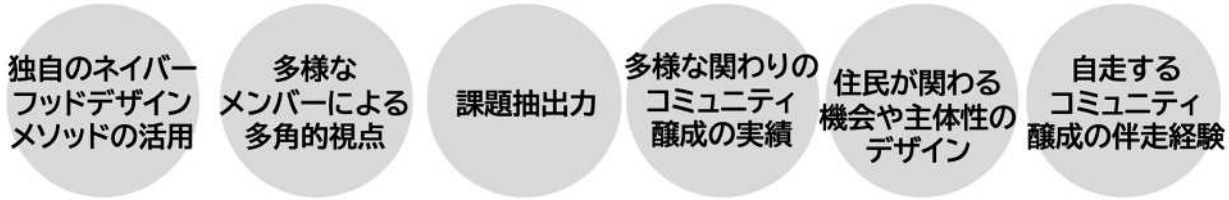
子育て、独居老人の増加、環境問題など都市におけるさまざまな課題を住民の方々が解決していけるようにしていくことです。

ネイバーフッドデザイン（近所に住む人々の信頼関係の構築）によってもたらされる効果



- 元港区職員で防災事業を担当し町会や自治会の調整を行ってきた港区の状況をよく理解する者や、自ら主体となって地域のコミュニティ醸成を行ってきた経験がある者などが対象者の視点に立って業務を遂行します。
- 本業務では、身近なコミュニティ活動に誰もが興味・関心を持つ土壌の醸成など、活動の担い手が広がっていく仕組みづくりを行うために、まずは地域の課題を正確に把握することが重要です。当社では、地域の方と関係性を構築しながら、地域の調査を行い、課題の設定、仮説の設定・検証、課題の解決策としてのコミュニティ醸成の支援を行ってまいりました。本業務においても、地域で活動する方を巻き込みながら、関係性を構築し、業務を遂行します。
- まずは、過去の業務の継続事業であることを踏まえ、今まで行実施されてきた業務の内容・成果物の分析を行い、リアの歴史や特徴、課題について把握した上で、アンケート調査や、現地ヒアリングを実施します。
- アンケートやヒアリング結果をもとに仮説をたてた上で課題の深掘りを行います。
- 最終的には、本業務の目的である「地域の多様な団体同士の交流を促進し、身近なコミュニティ活動に誰もが興味・関心を持つ土壌の醸成など、活動の担い手が広がっていく仕組みづくり」のために、ネイバーフッドデザインの手法を取り入れ、住民がまちに関わりたくなる機会の創造や、主体性が生まれる機会の提供をサポートし、人の力が発揮され続け事業や活動の持続性が生まれるための仕組みのデザインを行います。

▼本業務を取り組む上でのポイント



（2）業務の進め方

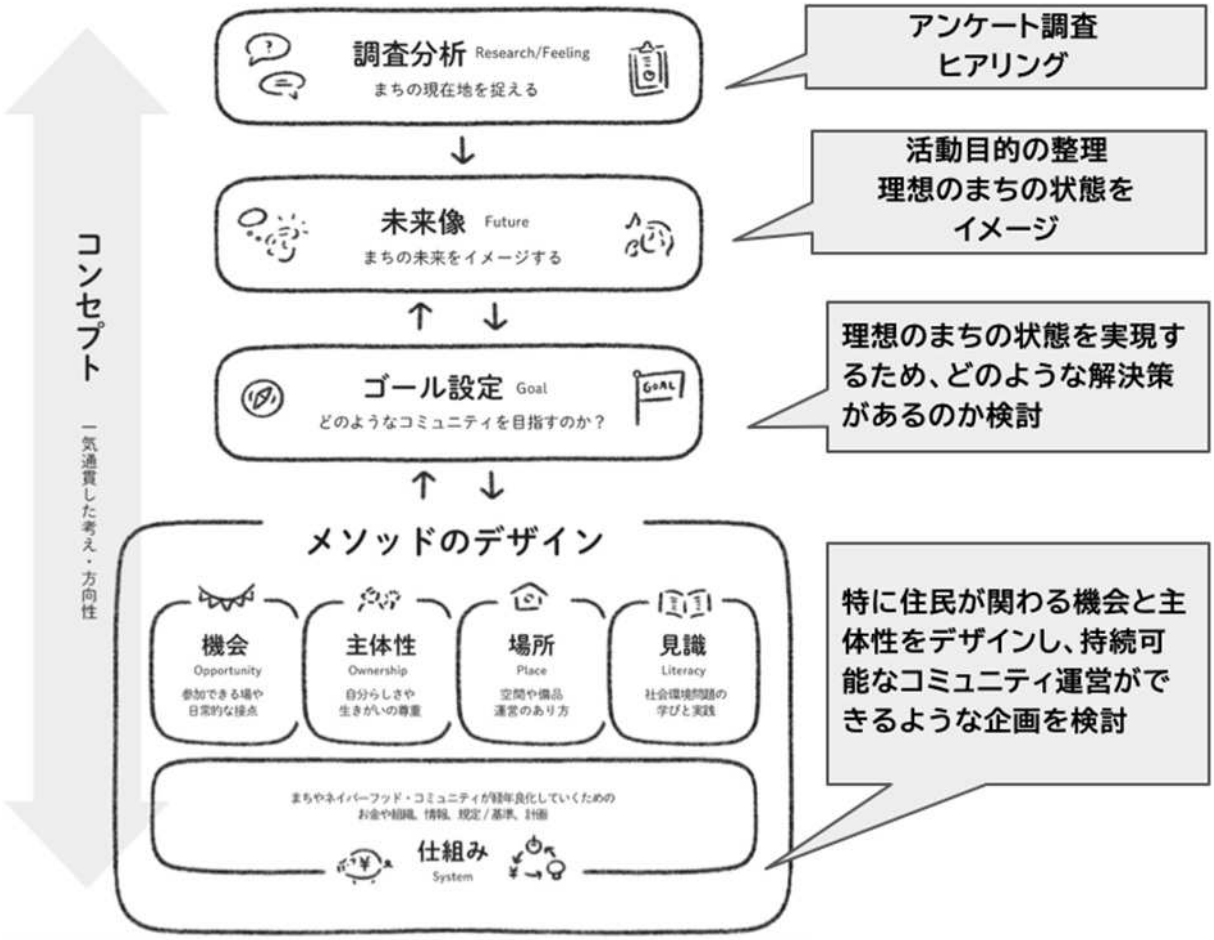
- 本業務を進めるにあたり、現在地域で活動する団体（町会・自治会）の課題を紐解き、理想のまちの状態を具体的にした上で解決策を組み立てる必要があると考えます。
- 町会・自治会の活動にあたる課題は多岐にわたり、ヒト（担い手不足）・コト（活動内容）・

カネ（活動予算、経理業務など）・情報（情報発信）に関する課題が複層的に絡み合っており、町会・自治会によってその状況はそれぞれ異なります。そのため、これまで町会・自治会からいただいたご意見も参考にしたうえで、会長だけではなく複数人に対してヒアリング等で掘り下げ、課題を紐解き、ヒト・コト・カネ・情報の観点で整理を行います。

・ 町会・自治会は、「存在目的が不明確・伝わっていない」もしくは「時代のニーズが変化する中で、現代の暮らしの中で求められている活動内容になっていない」という状態が根本にあり、各種の課題が生じていることが多く見られます。そのため、アンケートやヒアリングからの課題の抽出にとどまらず、各種調査結果から現代のライフスタイルにあった目的（未来像・理想の状態）と活動内容を再調整した上で、業務を実施します。

・ そして、目的（未来像・理想の状態）を設定した上で、町会・自治会主導で持続可能なコミュニティの運営が実施できるようなサポートを行い、理想のまちの実現に向けて、多様な人が主体性を持って地域活動に参加できる状態を目指します。

・ 同時に、地域特性を踏まえ、住民だけでなく、在勤・在学者も在住者と同様に地域に愛着を持ち地域活動に参加するような仕組みも検討します。



※Ａ４サイズ２枚・両面４ページを上限とします。

※補足資料を添付する場合は別途Ａ４サイズ１枚までとします。

※「BIZ　UD ゴシック」12Pt、白黒で作成してください。

※イメージ・写真の使用等は自由とします。

【様式７】

企画内容の評価
事業の企画・実施 提案に当たっては以下の項目について記述してください。 （1）令和6年度の年間業務計画について （2）周辺地域及び関係者の調査業務 提案にあたっては、下表を参考とし、各項目が分かるように具体的に記述してください。

① 調査の体制	調査対象者への課題を抽出するアンケート、ヒアリングについて、効果的に実施できるような体制を提案してください。
② 調査の手法	調査対象者が抱えている課題を効果的に抽出するための工夫を提案してください。
③ 地域の活性化	調査対象者からの意見や提案を地域活性化に結び付ける工夫を提案してください。

（3）【当設問は、調査業務を経た地域課題を仮定した上で提案いただくものとなります。】
①令和７年度以降の実施を立案するに当たり、地域団体の課題が「担い手不足」として、解決に向けての効果的な手法や考え方について過去の経験を例示しながら提案してください。併せて事業規模も提示してください。
②令和７年度以降の実施を立案するに当たり、地域団体の課題が「地域団体の加入者の減少」として、解決に向けての効果的な手法や考え方について過去の経験を例示しながら提案してください。併せて事業規模も提示してください。

（1） 令和６年度の年間業務計画について

1 実施方針等の作成
（ア） 実施方針（目的与件の整理等）作成：4 月中旬頃まで
（イ） 全体スケジュール作成 ：4 月中旬頃まで
2 周辺地域及び関係者の調査業務
（ア） 基礎情報の整理（過去のアンケートなどの分析）：4 月中
（イ） アンケートの設計・調査・取りまとめ等：4 月後半～7 月中旬頃まで
（ウ） ヒアリング内容の企画・実施・取りまとめ：6 月下旬～10 月初旬頃まで
3 課題深掘りワークショップ
（ア） 課題深掘りワークショップの企画：アンケート・ヒアリング結果を受け 10 月中
（イ） 課題深掘りワークショップの実施：11 月末～12 月中旬に１回
4 コンセプト・方針及びプログラム実施計画の立案
（ア） 課題解決に向けた仮説構築：アンケート調査終了後 7 月～8 月中旬
ヒアリング中からヒアリング後 10 月～11 月中旬頃
（イ） 再ヒアリング・仮説検証（6 件程度）:11 月中に実施
（ウ） R7 年度、R8 年度におけるプログラム企画・計画の立案：12 月中旬～1 月中頃
5 事務局業務
・ 定例打ち合わせ：4 月は月初に行い、以降は月の中頃に 1～1.5 ヶ月に１回開催予定
※詳細は補足資料全体スケジュール参照

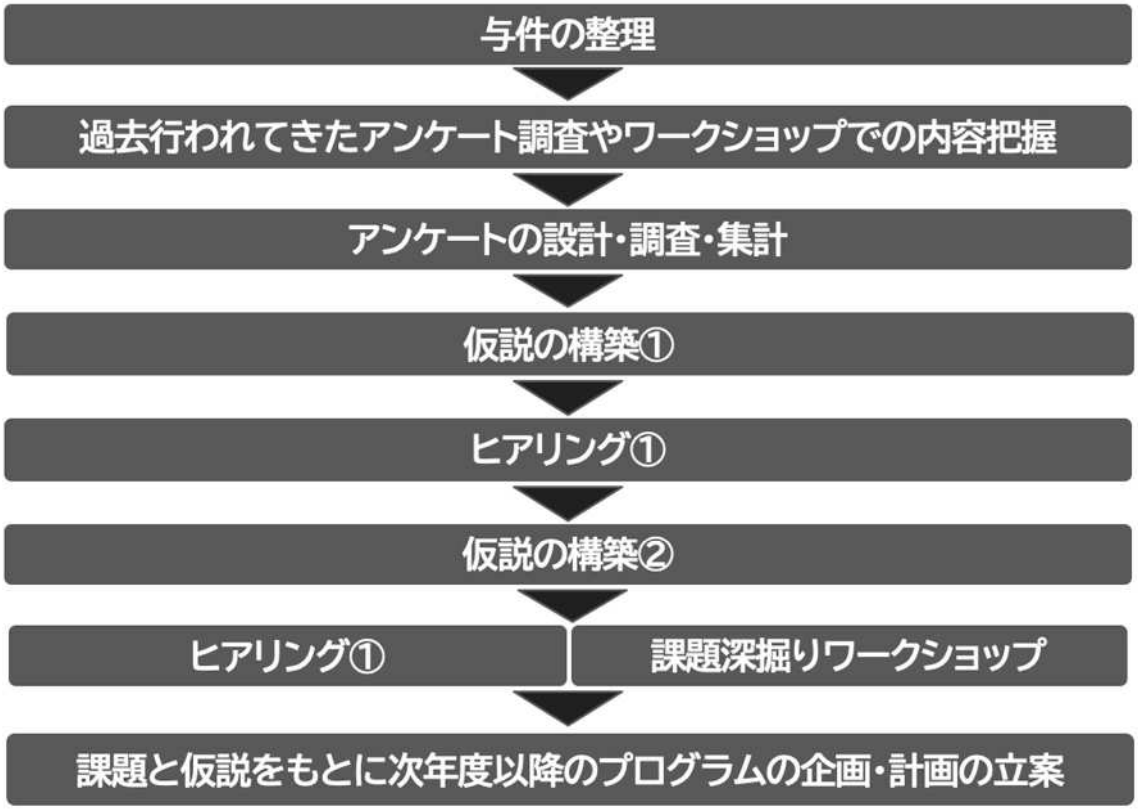
（2）周辺地域及び関係者の調査業務

① 調査体制について

・　当社は、地域のコミュニティ醸成の支援を行う中で、地域住民や周辺施設、店舗へのアンケートを含めた調査を実施し、地域住民の声をもとに持続可能なコミュニティ運営のスキームの立案や、コミュニティ団体の立ち上げ支援を行ってまいりました。その経験を活かし、調査対象者へのアンケート及びヒアリング調査を行なってまいります。

・　また、当社内には、国などの公的機関から委託を受け、子育て支援や児童福祉分野に関する調査研究を専門に行なっている部署があるため、その部署と連携しながら、有効な調査結果を得るためのアンケートの設計を行います。

・　下記の流れで、調査を行なっていきます。



② 調査の手法について

■　**本事業の与件の整理**

・　本事業の概要、スケジュールなど

→ **本事業における優先順位や目的、大切にしたいことを改めて確認します**

■　**過去に行われてきたアンケート調査やワークショップでの内容把握**

・　過去行われてきたアンケート調査やワークショップの結果などの資料を確認し分析を行います。

・　人口構成や動態など既存の定量・定性的なデータを分析し、エリアの特徴の把握を行います。

→ **住民または団体がどんなことに課題を持っているかを過去のデータから把握した上でアンケートの設計を行います**

■ **アンケートの設計・調査・集計**

・ 過去の調査を分析した上で、不足している情報を把握し、アンケートの設計・設問の設定を行います。

・ アンケートを設計する上では、当社の調査研究所を専門に行なっている部署と連携し、課題を効果的に抽出する設計を行います。

・ アンケートの配布対象者は貴区と調整の上決定します。

・ アンケートは、紙媒体(郵送や FAX など)の他、google フォームなどを活用します。

→ **調査対象者が答えやすく、課題を効果的に抽出できるアンケートの設計を行います**

■ **ヒアリング①**

・ 過去の資料とアンケート結果をもとに、ヒアリングに向けて取り組むべきことや課題を設定し、仮説を持った上で、ヒアリングを実施します。

・ 仮説を持った上でヒアリングを行うことで、課題をより具体的に効果的に抽出を行います。

・ 貴区と調整の上、約 12 団体にヒアリングを実施します。その際、町会・自治会のトップだけではなく、その団体の中で「直近で団体に加入した人」や「団体の中で一番年齢が若い人」などもヒアリング対象として広げ、対話を行います。町内・自治会のトップだけでなく、対象者を広げることで加入のハードルや、担い手不足という課題につながるより具体的な理由の把握に役立てます。

→ **アンケートや、過去の資料を分析した上で仮説を持ってヒアリングを実施します**

→ **団体の中でも複数人に対話を通じたヒアリングを実施することでより効果的に課題を抽出します**

POINT

ヒアリングのポイント

- 身構えられないようにまずは“地域のことを教えてください”というお願いをして、相手の話を丁寧に聞き会話をする。
- ヒアリングの環境、服装、時間帯など細部に気を配る。

ヒアリング項目のポイント

- 地域に住むきっかけ、どんな地域だと感じているか？
- 地域で行われている活動やイベント
- 地域でよくきく困り事など
- 課題だけを聞くというよりも、「未来」や「どのような状態にしたい」など理想の状態イメージした時と現在のギャップも含めヒアリングを行い、現状と未来のギャップから課題の深掘りを行う。

■ **課題の分析と仮説の構築①②**

・ アンケート結果とヒアリングによりでた課題のグルーピングなどを行い、課題を分析します。

・　過去の調査結果の把握、アンケート結果とヒアリング結果により課題を分析し、「未来像」「事業を通じて何ができそうか」をイメージし、仮説を構築します。

→ **課題の分析を行ったうえで仮説を構築し、仮説に基づき、2 回目のヒアリングに活かします**

■ヒアリング②／課題深掘りワークショップの実施

・　12件のうち6件程度に向けて仮説の検証を目的としたヒアリングを行います。

・　場合によっては、同じ課題を抱える町会・自治会をグループとすることや、近いエリアの方含めてヒアリングを行うなど工夫を行い、より効果的に課題を抽出します。

・　対象とする団体については貴区と協議の上決定します。

・　課題深掘りワークショップを通じて、実現したい未来を想像・共有した上で、目指す未来を実現するまでに課題となっていることを明らかにすることにより、表面化している課題のほか、潜在的な課題を抽出します。

・　ワークは、事例や問いの共有などのインプットトークを行なった上で、「自治会・町会の活動を通じてどのような未来が実現したいか」のような未来が想像できるような設問を投げかけます。

→ **ヒアリングを実施する際のグループ分けなどの工夫を行い、より効果的に課題の抽出を行います**

→ **目指す未来像から課題を導き出すことで表面化している課題だけでなく潜在的な課題を抽出します**

■次年度以降のプログラムの企画・計画の立案

・　アンケート結果、2 回のヒアリングと課題深掘りワークショップの結果をもとに課題を分析し、仮説①②の検証を行うとともに、「目指す未来像」をイメージします。

・　課題と目指す未来と赤坂・青山エリアの居住者や在学者・在勤者の現状から、当該エリアでの町会・自治会の目的の再設定やその目的にあった活動内容はどんなものがあるかの仮説を構築します。

・　上記の仮説をもとに、次年度以降のプログラムの企画・計画の立案を行います。

→ **本年度業務を通じて仮説を構築し、次年度以降のプログラムの企画・計画の立案を行います**

③ 地域の活性化

・　上記のとおり調査対象者のアンケートやヒアリング結果をもとに、調査対象者の意見や提案を取り入れ、次年度以降のプログラムの企画・計画の立案を行うことで、地域の活性化に結びつけます。その際、自分の意見や提案が反映されているという実感を持ってもらうために、意見や提案がどのように反映されているかのプロセスを可能な限り共有します。

・　ありたい姿から目的や活動内容を整理し、それぞれの関わりしろを明確に示すことで、調査対象者が地域に関わる余地をつくり、住民を主体とした地域の活性化につなげます。

・　調査対象者は年齢や家族構成などを含めて幅広く選出することを意識し、調査対象者以外にも共感してもらえる工夫を行います。

（３）①「担い手不足」及び②「加入者の減少」の解決に向けたご提案

地域団体の「担い手不足」及び「加入者の減少」は相関関係が深い課題と考え、①及び②を合わせて解決策をご提案します。

■結論

・　現代のライフスタイルに適した地域との関わり方をふまえ、地域団体の「担い手不足」及び「加入者の減少」の解決のためには**赤坂・青山地域における個々の町会・自治会の存在目的や活動内容を再度整理していく必要がある**と考えます。
・　また**地域への関わり度合いは、まちへの興味や愛着がベース**にあり、加えて**地域活動の内容や活動する人の魅力度が高まると、地域への関わり方も深くなる**と考えます。
・　そこで地域活動の機会を、住民がまちへの愛着を育み、自分らしさや生きがいを創造できる機会とするため、**住民とともに町会・自治会の存在目的や活動内容を整理します（主体性のデザイン）。**
・　加えて以下４つの取組みを行うことで、**自分の意志で楽しく活動する担い手が増え、結果的に加入者が増えるサイクルを回す**ことをめざします。
・　具体的には、項番１及び２を同時に実施し、赤坂・青山地区をエリア分けしたうちの１つのエリアにて、１年間項番３及び４を実施し、２年目以降に他エリアに展開させます。

１：ヒト（関わり方）の見直し【担い手不足の解決策】

・　適材適所の人材配置や多様な関わりしろの創出による無理のない運営方法に見直しします。

２：ハコ（組織体）の見直し【担い手不足・加入者減少 共通の解決策】

・　各町会・自治会のエリアをまたぎ、地域団体同士が連携した広域での活動を展開します。

３：コト（活動内容）の見直し【加入者減少の解決策】

・　地域に興味を持ってもらうことを目的に、団体への加入等に関係なく誰でも参加できるイベントなどを実施します。

４：情報（広報）の見直し【加入者減少の解決策】

・　会員ではない人にも広く発信することで、まずはまちについて知ってもらいます。結果として町会・自治会にも興味を持つきっかけになると考えます。

■詳細

＜背景＞

<u>◎時代の変化</u>

・　これまでは町会・自治会がコミュニティの核を担い、基本的には無償ボランティアのもと住民が役職を担って地域活動を行なってきました。
・　町会・自治会がこれまで地域を守り、育ててきたことは間違いない一方で、時代の変化によるライフスタイルの多様化などから、地域活動への強制参加が難しくなって

きているとの声が赤坂・青山地区でもありました（赤坂でつながりたい調査報告書等より）。

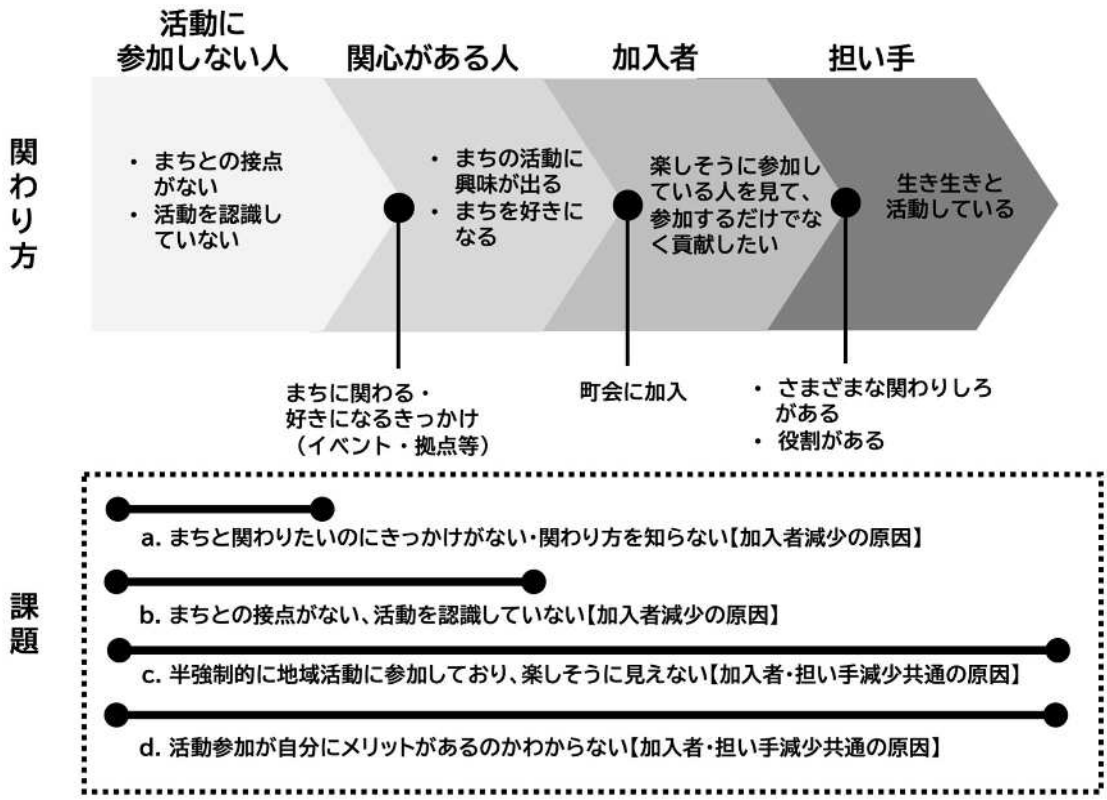
・ 現代のライフスタイルに適した地域との関わり方をふまえ、**赤坂・青山地域における町会・自治会の存在目的（福祉・交流・環境・防災等）や活動内容を再度整理していく必要がある**と考えます。

◎地域への関わり方

・ **まちへの興味や愛着**がベースにあり、加えて**地域活動の内容や活動する人の魅力度**が高まると、**地域への関わり方も深くなっていく**と考えます（下記の図参照）。

・ まちでの活動が自分の暮らしにつながっている実感が湧くと、加入者から担い手になると考えます。

▼地域への関わり方と課題



＜課題＞

上記の図を踏まえ、地域団体の「担い手不足」「加入者減少」の原因として以下が挙げられます。

a　**まちと関わりたいのにきっかけがない/関わり方を知らない【加入者減少の原因】**

b　**まちとの接点がない、活動を認識していない【加入者減少の原因】**

c　**半強制的に地域活動に参加しており、楽しそうに見えない【共通の原因】**

d　**活動参加が自分にメリットがあるのかわからない【共通の原因】**

＜解決策＞

・ 上記の背景や課題を踏まえ、地域活動の機会を、住民がまちへの愛着を育み、自分らしさや生きがいを創造できる機会とするため、**まずは住民とともに個々の町会・自治**

会の存在目的や活動内容を整理します（主体性のデザイン）。

・　そして以下４つの取組みを行うことで、自分の意志で楽しく活動する担い手が増え、結果的に加入者及び担い手が増えるというサイクルを回すことをめざします。

・　項番１及び２を同時に実施し、赤坂・青山地区をエリア分けしたうちの１つのエリアにて、１年間項番３及び４を実施し、２年目以降に他エリアに展開させます。

１：ヒト（関わり方）の見直し【担い手不足の解決策】

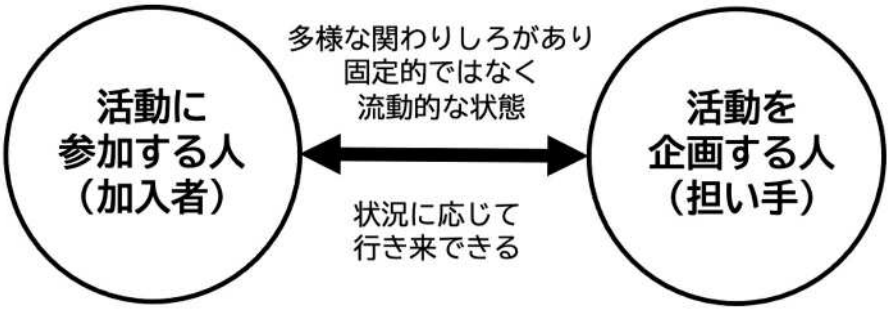
以下へのアプローチに該当します。

ｃ　半強制的に地域活動に参加しており、楽しそうに見えない【担い手の原因】

ｄ　活動参加が自分にメリットがあるのかわからない【共通の原因】

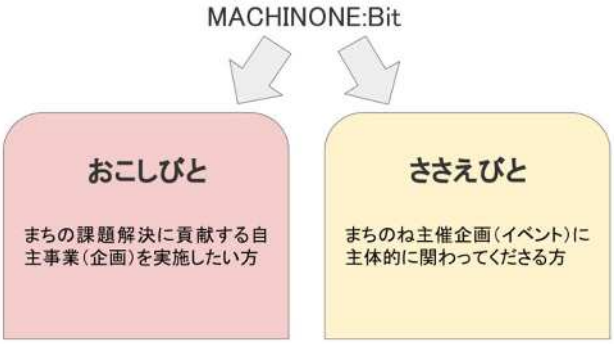
・　必要な役割や人物像を団体から具体的に明示することで、「地域への関わり方がわからない」という層を解消し、得意なことを生かせる仕組みを作ります。

・　また活動に参加したいと感じてもらうためには、担い手自身が楽しく活動していることが必要です。そのためには多様な関わりしろがあることで、一人一人にあった形で活動に参加できると考えます。



<u>◎参考事例：エリアマネジメント団体「まちのね浜甲子園」の「まちのねビット」</u>

・当社の関わり方：一般社団法人立ち上げ後６年間の事務局運営伴走サポート



・エリアの課題解決に貢献する自主事業に取り組みたいと考えている方や、まちのね浜甲子園の活動を主体的にサポートしてくれる方を認定する制度。

・団体スタッフがサポート体制を整え、事業の実践・実現に向けて２年間サポート。

・関わりしろの幅を持たせることで、様々な形の関わりが生まれ、子育て中のママなども参加できるようになりました。

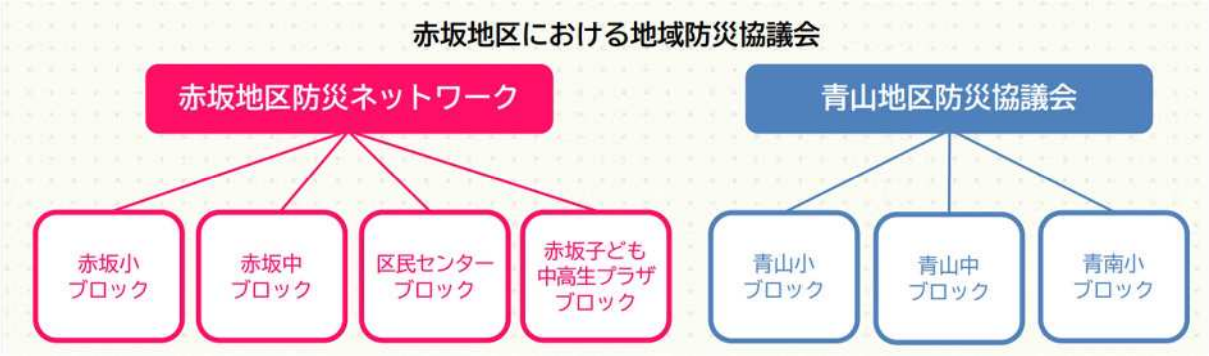
・「人脈を広げられた」「自分自身の成長につながった」という声をいただきました。

・上記のように、関わり方のデザインを通じて担い手や加入者を増やしていきます。

２：ハコ（組織体）の見直し【担い手不足・加入者減少 共通の解決策】

・ 現時点で既に地域団体では人材が不足し、活動したくてもできないという声が出ています。そのため各町会・自治会のエリアをまたぎ、地域団体同士が連携した広域での活動を展開します。

・ エリアについては、地域防災協議会が結成されている７つを想定します。
▼７つのエリア（基本計画より抜粋）



◎参考事例：QURUWA７町・広域連合会（愛知県岡崎市・他社事例）

・ ７つの町会及び周辺町会内の連合会。複数の町内会が相互に連携し、町の垣根を超えてより積極的な自治の推進を図っている。毎月開催される定例会には、地域役員+新旧商業者+イベント実施者+行政関係課+教育機関など 60-70 名が参加し、複合的な連携が生まれている。

・ 他社事例ですが本件の外部有識者と接点があるため、アポイントを取りヒアリングを実施します。

３：コト（活動内容）の見直し【加入者減少の解決策】
以下へのアプローチに該当します。

a まちとの接点がない、活動を認識していない
b まちと関わりたいのにきっかけがない・関わり方を知らない

地域に興味を持ってもらうことを目的に、団体への加入等に関係なく誰でも参加できるイベントなどの企画を支援します。

◎参考事例:品川区大崎第一地区防災協議会主催 防災サッカー&防災訓練(当社事例)

・当社の関わり方：イベントの企画運営
・若い世代に町会・自治会のことを知ってもらい、防災訓練に参加してもらえるようにしたいという地域の課題感から、まずは楽しく防災を学べるイベントを企画し、小学校でチラシを配布。
・同日・同会場で地域防災協議会の防災訓練を実施したことで、普段防災訓練に来場することが少ない世代に参加してもらえました。

４：情報（広報）の見直し【加入者減少の解決策】

以下へのアプローチに該当します。

a　まちとの接点がない、活動を認識していない

b　まちと関わりたいのにきっかけがない/関わり方を知らない

・　過去の調査結果から、町会・自治会の活動内容や目的を知らない人がいることがわかっています。情報発信の対象を上記のような方のうち**特に若い世代**に設定し、効果的な発信内容及びツールを検討します。会員ではない人にも広く発信することで、まちについて知ってもらい、町会・自治会にも興味を持つきっかけになると考えます。

・　若い世代にも興味を持ってもらえる**デザインとするための広報物作成サポート**を行います。具体的には、予算等に応じた活動内容が伝わる写真の掲載やカラー印刷等のアドバイスや、デザインツールの活用サポートを行います。ツールについては、港区地域振興課様が「町会・自治会まるごとデジタル支援事業」を実施しているため、町会・自治会それぞれの状況に応じて検討を行います。

・　また、地域への関わりしろを創出を目的に、広報物作成にあたっては**地域にいるデザイナー**等に協力してもらうことも検討します。

◎参考事例：<u>エリアマネジメント団体「まちのね浜甲子園」発行の広報物</u>

<u>（近隣大学のインターン生が作成）</u>

・　情報交換については、例えば LINE のオープンチャットを活用すれば、個人情報を出さずに気軽に地域の情報交換ができるため、オンラインツールの活用を検討します（当社事例ではイベント企画メンバーの情報交換や、災害時の連絡ツールとして活用している地域があります）。

＜事業規模＞

〇令和７年度：７００～７５０万円程度（税込）

・　赤坂・青山地区を７つにエリア分けし、１つのエリアにてサポートを実施。

・　年３回程度の地域イベントの企画運営・開催サポートを通じて以下を行います。

- 企画コアメンバー集め
- 企画コアメンバーとの企画会議
- 企画コアメンバーのコミュニケーションフォロー

〇令和８年度：７００～７５０万円程度（税込）

・　令和７年度の取組みを踏まえ、他エリアに展開します。

・　展開方法は、先進事例となった１エリアのコアメンバーによるレクチャーができるようになる姿が理想だと考えています。そのためのノウハウ集の整備を行う等の形でサポートをします。

＜その他参考事例＞

<u>◎さいたま新都心の新築大規模分譲マンションにおけるコミュニティ醸成の取組み</u>

・駅前の再開発として、行政・地域団体を協働した総戸約 1400 戸のプロジェクト

・以下の取り組みを両軸で進めることで、マンション住民のつながりづくりを育む。当社は以下①の企画運営及び②の伴走サポートにて携わっている。

① つながりの価値を実感できるコミュニティプログラムの開催（1～2 ヶ月に 1 回×3 年間）

② 自治会の立ち上げ・運営による、活動への関わりしろのデザイン（役員・クラブ・サークルなど多様な関わり方を自治会役員とともに構築）

<u>◎エリアマネジメント団体「まちのね浜甲子園」における地域との連携</u>

・元々UR 都市機構の大規模団地で、建物の老朽化・住民の高齢化・独居率の上昇・コミュニティの希薄化が課題となり、団地の建て替え及び再開発に伴う公民連携事業としてエリアマネジメントを実施。

・以下の取り組みの実施により世代を超えた緩やかなつながりづくりに取り組む。当社は事務局運営のサポートとして、エリアマネジメント団体立ち上げから６年間の伴走業務を受託。持続的な仕組みづくりや住民の巻き込みをメインに携わる。

① 拠点（コミュニティスペース・レンタルスペース・カフェ）の運営事業

② 外部団体連携事業（近隣大学、福祉施設、西宮市等）

③ エリアコミュニティ活性化事業（マルシェ等のイベント、ハマコー情報局、まちのねビット）

④ 広報・PR 活動（広報誌の発行、HP、SNS 等の発信、視察対応等）

・上記を実施した結果、活動の可視化され若年層の参加者の増加したほか、自治会等と連携した防災訓練を開催。

※A4サイズ5枚･両面 10 ページを上限とします。

※補足資料を添付する場合は別途A4サイズ1枚までとします。

※｢BIZ　UD ゴシック｣12Pt､白黒で作成してください。

※イメージ･写真の使用等は自由とします。

■全体スケジュール

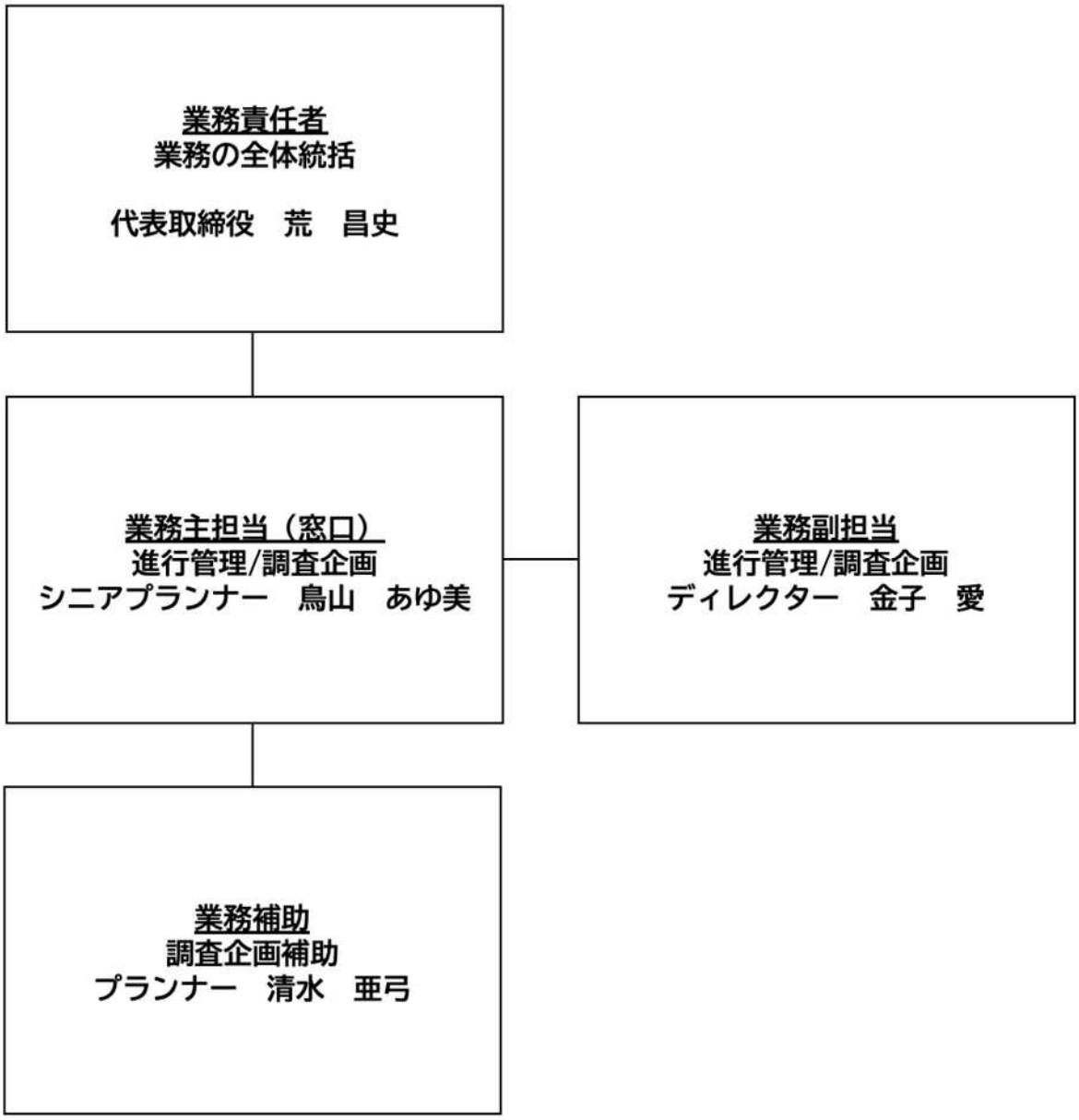
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全体	定例mtg（月1回程度）		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
業務計画作成	実施方針策定	HT												
	スケジュール策定	HT												
調査業務	基礎情報整理	HT												
	アンケート設計（対象等）	HT・港区												
	アンケート調査実施準備（項目の作成等）	HT・港区												
	アンケート調査実施	HT・港区			回答期間									
	アンケート調査取りまとめ	HT												
	ヒアリング先の検討、紹介、日程調整	港区												
	ヒアリング項目の検討	HT												
	ヒアリング（12件程度）	HT												
	ヒアリング実施後の取りまとめ（課題抽出）	HT												
課題深掘りWS	課題深掘りワークショップの企画	HT												
	課題深掘りワークショップの実施	HT												
企画業務	課題解決の仮説構築	HT・港区												
	再ヒアリング先との調整	港区												
	仮説検証・再ヒアリング（6件程度）	HT												
	ビジョン・コンセプト検討	HT・港区												
	次年度プログラム企画・計画の立案	HT												
成果物等作成	報告書作成	HT										報告書作成	確認・修正	納品

【様式８】

業務実施体制
本業務を実施するにあたり、以下(1)から(3)について記述してください。(3)はリスク管理について、事前・当日・事後のそれぞれの対応策を具体的に提案してください。 （1） 事業責任者及びスタッフの配置 （2） 個人情報の取り扱い （3） 安全対策に関する事項

（１） 事業責任者及びスタッフの配置

- 以下の図のとおり、業務主担当者を連絡窓口とし、発注者と円滑なコミュニケーションが取れるようにします。
- また、業務主担当者が不在の際に発注者と連絡が取れるよう、業務副担当者を代行として設定します。



（２）　個人情報の取り扱い

- 区が貸与する資料に記載された個人情報及び業務に関して知り得た個人情報については、区の許可なしに複写、複製または第三者へ提供しません。
- 個人情報を含むデータの区との受け渡しについては、直接手渡しまたはパスワード付きのファイルとすることを原則とし、区の許可なしに電子メールや郵送による受け渡しをしません。
- 個人情報を含むデータの管理方法については、文書の場合は、第三者が無断で立ち入ることのできない事務所内に設置した専用の文書ボックスに収容し、また、電子データの場合は、当該業務実施に係る技術者のみにアクセス権限が付与されたファイルサーバー内に収容し、厳重に管理します。

（３）　安全対策に関する事項

以下①～③は、全て上記（２）の内容に基づき、個人情報を扱います。

①事前の対応

- メールや文書の誤送付及び配信を防ぐため、2 名以上でのダブルチェックを基本とします。
- ヒアリングの事前準備として対象の方のプロフィールの確認を行い、住民の方に失礼なことがないよう細心の注意を払います。
- ヒアリング及び課題深掘ワークショップ開催前には、当日発生しうるトラブルを想定したうえ役割分担を行い、緊急対応フローを場合別に作成したうえ担当間で事前に対応を確認します（遅刻者の対応、災害等による対応等）。また、その内容は事前に貴区と共有・確認します。

②当日の対応

- ヒアリング及び課題深掘ワークショップにおいては、会場内の感染症対策として最低限以下は必須項目として行います。
  - ○ こまめな換気
  - ○ 席の間隔の確保
  - ○ アルコール消毒液の準備
- 万が一感染症が流行している状況下での開催となった際は、上記に加えて以下を行います。
  - ○参加者前人にマスクの着用を依頼。
  - ○受付にて検温し、発熱（37.5 度以上）の方には参加を控えていただく。
- ヒアリング及び課題深掘ワークショップにおいてトラブルが発生した際は、参加者の安全を最優先に対応し、迅速かつ適切に対応します。
- やむを得ない都合で参加できなくなった方には、事後報告等によりフォローを行います。

③事後の対応

- 個人情報等の記載がある、印刷した資料等は使用後すぐにシュレッダーにて破棄します。
- 万が一やむを得ない事情でヒアリング及び課題深掘ワークショップに来られなくなった方がいた場合は、できるだけ時間を空けない日程で再調整することを試みます。
- 万が一個人情報等の漏洩や感染症感染者の発生が発覚した場合、迅速にさらなる漏洩や感染を防ぐ対応をしたうえ、発注者に報告し、対応を協議します。その後原因を分析し、再発防止策を早急に定めます。

※Ａ４サイズ３枚・両面６ページを上限とします。
※補足資料を添付する場合は別途Ａ４サイズ１枚までとします。
※「BIZ　UD ゴシック」12Pt、白黒で作成してください。
※イメージ・写真の使用等は自由とします。